

令和2年度第7回 感染症発生動向調査部会

令和3年3月17日

月番：大西秀典

1 前月の感染症発生動向について（2021年第5週～8週・2月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は14例で、前年の同期累計報告数60例、本年の累計報告数が40例であり岐阜県下においては発生が減少傾向である。
- ・ 三類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 四類感染症については、A型肝炎が1例、レジオネラが1例報告されている。
- ・ 五類感染症(性感染症以外)については、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症が2例、侵襲性肺炎球菌感染症が1例、播種性クリプトコックス症が2例、破傷風が1例、百日咳が1例といずれも散発している程度であり大きな流行は確認されていない。百日咳の2例の内訳は学童期および20歳台の比較的若年者であった。
- ・ 指定感染症として、新型コロナウイルス感染症が今月の報告数は489例、本年累計2139例と岐阜県下においても流行が続いている。

<定点把握対象疾患>

- ・ インフルエンザは今冬の発生数は極めて少なく、今回の対象期間での県内発生数は9件であった。
- ・ RSウイルス感染症も、発生がゼロであり、例年とは様相がまったく異なる。
- ・ 同様に手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナの発生もほぼゼロの状況が続いており、マイコプラズマ肺炎も飛騨地区で3例報告があるがそれ以外の地域での発生はゼロである。
- ・ 一方で、咽頭結膜熱は29例、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は43例の発生があり、若干の流行がみられているも、それぞれ前月比72.5%、71.7%と減少傾向である。
- ・ 感染性胃腸炎は159例の発生があり、前月比93.0%、前年同期比21.8%と例年の1/5程度の発生である。
- ・ 突発性発疹は61例の発生があり、前月比85.2%、前月比118.2%で、コンスタントに発生がみられている。
- ・ その他目立った調査対象感染症の流行はみられていない。

2 検討すべき課題

<事務局から>

- ・ 全数把握対象疾患データの提示方法の一部変更について
- ・ 来年度の「感染症かわら版」など県民への情報提供のスケジュールについて

3 情報提供すべき事項

・2020年10月よりロタウイルスワクチンの定期接種が開始された。しかしこのワクチンの接種対象年齢において、重症複合免疫不全症(SCID)患者の症状が顕在化し診断されている例が極めて少ないため、ロタウイルスワクチンを未診断のSCID患者に接種してしまうことによる重篤な副作用の発生が懸念される。これに対応するため、岐阜県下では2021年4月1日より新生児マススクリーニング追加検査として有償ではあるが原発性免疫不全症候群を含む7疾患を対象とした検査が開始されることとなった。

4 情報提供（月番委員専門分野から）

・2021年4月16-18日に第124回日本小児科学会学術集会が京都国際会館にて開催されます。Live配信、オンデマンド配信を含むハイブリッド形式による開催です。市民公開講座も開催されます。

5 その他（感染症対策推進課から）

- ・ロシアにおける高病原性鳥インフルエンザH5N8亜型のヒトへの感染について
- ・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の国内での発生状況について
- ・岐阜県における新型コロナウイルス感染症患者数推移・基準指標の状況

<検討結果>